

《Ⅶ社会的活動》の記述及び資料等について

【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

(1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

社会的活動のひとつとして、本学は、生涯教育に取り組んでいる。生涯教育は、本学の教育目標の一つ「幅広い教養と豊かな人間性を涵養し、自他ともの幸福を実現しゆく人格を育む」に対応するものと位置づけている。現代ビジネスや実用英語の研究・教育の内容は、現実の社会生活に直接・間接に有益である。

地理的關係から、日常的なリズムの中で正規授業に社会人を受け入れる場所としては適していない。しかし、夏季に限定して開講される「夏季大学講座」（学校法人創価大学および姉妹校の関西創価学園主催）、および、八王子学園都市大学と連携した「公開講座」には本学教員も携わっており、今後も生涯教育に更に取り組んでいきたい。

今後の課題として、地域に貢献できるような授業科目の設置の検討を進めたいと考えている

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

社会人の受け入れについては、社会人からの需要がほとんど見られないので、現状では実施していない。その最大の理由は、本学と同じ敷地内にある創価大学の通信教育部に現在2万2千人の学生が在籍していることである。そこでは4年制の経済・法学・教育学部のほかに、教養の1年終了コースが設けられており、社会人教育の需要が十分満たされていると考えられるためである。

(3) 過去3ヶ年（平成16年度～18年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

本学独自の公開講座は行っていない。「夏季大学講座」（学校法人創価大学および姉妹校の関西創価学園主催）や八王子市の市民公開講座の八王子学園都市大学に本学教員が出講する形をとっている。

創価大学の夏季大学講座には年2名、八王子学園都市大学には年1名の教員が参加している。なお、正規授業の開放等は、正規生の教育への影響や安全の確保等を考慮し、行っていない。

平成16年度～18年度に本学教員が行った公開講座

年度	期間	教員名	出講機関	テーマ	備考
H16	4月～9月	西本徹教授	八王子学園都市大学	異文化コミュニケーション	不開講
	8月23日	鈴木正敏教授	創価大学「夏季大学講座」	日常生活と健康	
H17	4月～9月	西本徹教授	八王子学園都市大学	外国人とのつき合い方	
	8月28日	石井秀明教授	創価大学「夏季大学講座」	地球市民のすすめ	

H 18	6月3日	楠田直樹教授	八王子学園都市大学	古代ローマの理想の女性像―クラディアの場合	
	8月26日	水元昇准教授	創価大学「夏季大学講座」	創立者と松下幸之助	
	8月27日	鈴木正敏教授	創価大学「夏季大学講座」	日常生活と健康	

(4)過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の短期大学と地域社会（自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動について記述して下さい。

八王子地域21の大学等と八王子市や八王子市学園都市文化ふれあい財団及び八王子商工会議所等の産業振興団体で構成される「八王子産学公連携機構」の第2マッチング推進部会のリエゾンプロデューサーに現代ビジネス学科教員が1名代表として参加し、助成事業を行ったり、大学教員データベースに登録している。特に、毎年12月に行われる学生のアイデアを競う「はちおうじ企業・地域活性化アイデア発表会」には複数のグループが参加し、優秀賞を獲得するなど地域活性化を促進する提案を行ってきた。

【学生の社会的活動について】

(1)過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

クラブのボランティア部の学生が、障害者施設の方々の家事の手伝いをしたり、軽度発達障害児をもつ母達の会議中に、子供の面倒をみるなどの活動をしている。

また、知的障害者施設のイベントには、ボランティア部をはじめ吹奏楽部、ダンス系クラブ団体、ヴォーカルグループ（クラブ）等が合同参加をし、大変好評を博している。

過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の学生による地域、ボランティア活動等

平成16年	6月26日	障害者生活寮にて、ボランティア部が家事等の手伝いをする。
	9月18日	由木東市民センターにて、ボランティア部が障害のある子供を持つ母親の会議中に、子供の面倒をみる。
	11月13日	知的障害者施設「愛幸祭」にて、ボランティア部と吹奏楽部が合同演奏。出店等の手伝いもする。
	11月18日	由木東市民センターにて、ボランティア部が障害のある子供を持つ母親の会議中に、子供の面倒をみる。
	12月4日 12月11日	知的障害者施設「愛幸」にて、ボランティア部が入居者のクラブ活動の手伝いをする。
平成17年	4月30日	知的障害者施設「愛幸」にて、ボランティア部が入居者のレクリエーションなどの手伝いをする。
	5月14日	知的障害者施設「愛幸」にて、ボランティア部が入居者の手伝いをする。
	11月3日	知的障害者施設「愛幸ふれあいコンサート」にて、ボランティア部、吹奏楽部、ヴォーカルグループ、ダンスクラブが出演しイベントを盛り上げる。

	11月28日	第21回白鳥祭（学園祭）において、ボランティア部がフリーマーケットを行い、その収入金を財団法人日本ユニセフ協会の通常募金に募金をする。
	12月3日	加住小学校学童保育所に通う、小学1年生～3年生の児童と交流する。
	12月17日	知的障害者施設「愛幸」にて、ボランティア部が入居者の手伝いをする。
平成18年	4月22日	「立川みんなの音楽祭」（主催：たちかわみんなの音楽祭組織委員会）に、ヴォーカルグループ、軽音楽部、吹奏楽部が参加する。
	5月13日	知的障害者施設「愛幸」にて、ボランティア部が入居者の手伝いをする。
	6月24日	知的障害者施設「愛幸」にて、ボランティア部が入居者の食事・買い物等の手伝いをする。
	7月31日	NPO グリーンウッドこども山賊キャンプに、学生個人がボランティアとして参加する。
	10月21日	知的障害者施設「愛幸」にて、ボランティア部が入居者の手伝いをする。
	11月25日	知的障害者施設「愛幸祭」において、ボランティア部、吹奏楽部、ヴォーカルグループが、演奏や歌を歌い盛り上げる。また入居者の様々なサポートをする。

(2)短期大学では学生の地域活動、地域貢献或いはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

本学の建学の指針にある「社会性と国際性に富む女性」を育成するために、地域活動、地域貢献活動は意義のあるものと認識し、学業に支障なく、防犯上も安全と判断した学生の自発的な活動については支援している。積極的に課外活動を行っている学生は、より一層社会性が体得できるものと評価している。

【国際交流・協力への取組みについて】

(1)過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の学生の海外教育機関等への派遣（留学〈長期・短期〉を含む）の状況を記述して下さい。

本学では、「社会性と国際性に富む女性」との建学の指針のもと、アメリカ創価大学において夏季・春季語学研修（3週間）（参Ⅶ-1）と留学（3ヵ月）（参Ⅶ-1）を実施している。平成16年度～平成18年度の間も、毎年、夏季3週間に80名、春季3週間に80名、3ヵ月留学に40名が参加し、大きな成果をあげている。参加者は、厳正な選抜試験で選考されている（18年度のスプリングスクールは中止）。また、併設の創価大学と交流協定のある数大学を選び、短期語学研修や推薦留学（1年間）（参Ⅶ-1）の制度も実施している。

過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の学生の海外教育機関等への派遣状況

平成16年度	7.30～8.26	クィーンズランド大学付属語学学校	2名
	8.2～8.22	SUA サマースクール	80名
	8.10～8.23	デンマーク・アスコー国民高等学校	2名
	9.20～12.20	SUA 留学プログラム	39名
	2.5～2.28	フィリピン大学・デリマン校	1名
	2.7～2.27	SUA スプリングスクール	80名
	2.21～3.12	インド・デリー大学	1名
	2.21～12.24	オタゴ・ランゲージセンター	1名
平成17年度	7.28～8.25	クィーンズランド大学付属語学学校	1名
	8.1～8.21	SUA サマースクール	80名
	9.22～12.16	SUA 留学プログラム	40名
	2.4～2.27	フィリピン大学・デリマン校	1名
	2.4～3.5	カナダ・カールトン大学	1名
	2.7～2.27	SUA スプリングスクール	80名
	2.12～3.3	インド・デリー大学	1名
平成18年度	7.31～8.20	SUA サマースクール	80名
	9.21～12.15	SUA 留学プログラム	40名
	2.4～3.5	カナダ・カールトン大学	1名
	2.13～2.24	インド・デリー大学	1名
	2.20～12.29	オタゴ・ランゲージセンター	3名

(2)過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

学生レベルで、インド創価池田女子大学や米国エマソン協会等と交流を深めている。インド創価池田女子大学は学生間でアルバムやグリーティングカードを交換し、友情を深めている。

平成17年度	2月	ワングリ・マータイ女史に対し、学生の総意をもって学生代表より「創価女子短期大学友誼之証」を贈る。
平成18年度	6月	エマソン協会ワイダー会長による講演会を開催し、その席上、短大学生会より「創価女子短期大学友誼之証」を贈る。
	9月	インド創価池田女子大学クマナン議長一行が来学。校内を見学した後、学生代表から挨拶。学生と交流を深める。

	11 月	フィリピンリサールシステム大学デレオン学長一行が来学。デレオン学長に対し、学生の総意をもって、学生代表より「創価女子短期大学友誼之証」を贈る。校内を見学した後、学生と交流を深める。
--	------	--

(3)過去3ヶ年（平成16年度～18年度）の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

過去3ヶ年の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況

該当者	期間	目的	出張先
鈴木正敏 現ビ学科教授	H17.5～H18.3	在外研究	米国・ミシガン州立大学
リサパリラ 現ビ学科准教授	H18.3.13～3.18	国際シンポジウム（通訳）	台湾・中国文化大学・第8回多国籍企業国際シンポジウム
水元昇 現ビ学科准教授	H18.3.13～3.18	国際シンポジウム（報告者）	台湾・中国文化大学・第8回多国籍企業国際シンポジウム
長島敏子 英コ学科准教授	H18.3.13～3.18	TESOL 40 回大会シンポジウム参加	米国・フロリダ州タンパコンベンションセンター
三好楠二郎 英コ学科教授	H18.5.24～5.28	国際会議・研究発表	伊・ミラノ大学言語学比較文学部主催国際学会
鈴木正敏 現ビ学科教授	H18.7.14～7.20	国際会議・研究発表	米国・サンフランシスコ栄養教育学会年次総会
亀田多江 現ビ学科准教授	H18.8.28～9.3	現地遠隔医療見学	フィンランド・ヘルシンキ
石井健司 現ビ学科准教授	H18.10～H19.3	在外研究	米国・イーストウエストセンター
亀田多江 現ビ学科准教授	H18.10.24～30	国際会議・研究発表	カナダ・ケベック Laval 大学 (SoMeT06)

【特記事項について】

(1)この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2)特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

〈添付資料〉 社会人受け入れについての印刷物等

〈参考資料〉 外国人（留学生を含む）に向けた印刷物等